# 厚生労働行政推進調查事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) 分担研究報告書

#### 開催地域の救急医療体制の構築とリスク評価に係る研究

研究分担者 森村 尚登 東京大学大学院医学系研究科救急科学 教授

#### 研究協力者

浅利 靖:北里大学救命救急医学教授 中川 儀英:東海大学救命救急医学教授

安部 猛:横浜市立大学センター病院助教 野口 英一:戸田中央医科グループ顧問

猪口 正孝:東京都医師会副会長 服部 潤:北里大学救命救急医学助教

内山 宗人:横浜市立大学救急医学助教 服部 響子:北里大学産婦人科助教

蕪木 友則:武蔵野赤十字病院救命救急センター副部長 渕本 雅昭:東邦大学医療センター大森病院看護部

橘田 要一:帝京大学医療技術学部教授 本多 英喜:横須賀市立うわまち病院副院長

坂本 哲也:帝京大学医学部救急医学講座教授 松田 潔:日本医科大学武蔵小杉病院副院長

高橋 耕平:横浜市立大学市民総合医療センター講師 吉田 茜:東京都立墨東病院看護部

高山 泰広:花と森の東京病院救急科医長 吉原 克則:東邦大学医療センター大森病院臨床教授

竹内 一郎:横浜市立大学救急医学教授 渡邊 顕弘:日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター助教

問田 千晶:東京大学附属病院災害医療マネジメント部講師

### 研究要旨:

【研究目的】地域内の複数会場において同時開催されるマスギャザリングイベントに対する救急災害時医療体制の構築を支援するために、初年度に「同時多数傷病者事故(Mass casualty incident: MCI)発生時の医療機関ごとの緊急度別傷病者搬送数と院内収容先予測のシミュレーションモデル(G-PRiSM)」を考案し、解析結果をコンピュータ上の当該地域の地図上に展開するためのアプリケーションソフトを開発した。今年度の研究目的は、G-PRiSMの操作性や視認性ならびに機能拡張性を高めることと、アプリケーション作成に必要な項目を明示し全国地域での活用を見据えた汎用性の向上を図ることである。【研究方法】従来の指定エリア内医療機関の受入状況の可視化に基づき、よりシミュレーション結果を判読しやすくするための画面のレイアウトの修正、画面切り替えの簡略化、傷病者数設定条件の追加を行った。【結果】アプリケーションソフトはウェブへのアクセスを要さないスタンドアローンの形式を採用した。また具体的な操作説明を記載したマニュアルを作成した。【結論】今回のアプリケーションソフトの改訂によって、その操作性や視認性ならびに機能拡張性を高めることができ、今後の全国地域での活用を見据えた汎用性の向上を図ることができた。

#### A. 研究目的

大規模イベント開催時の救急・災害医療体制の構 築にあたっては、具体的なリスクの想定が不可欠で ある。本分担研究班の初年度の研究において、東京 オリンピック開催中の開催地域内での同時多数傷病 者事故 (Mass casualty incident: MCI) を想定し、 MCI発生現場と周辺医療機関への消防救急車のアク セス情報と医療機関の類型を基に、設定時間内での 医療機関ごとの傷病者搬送数と院内収容先を予測す る国内初のシミュレーションモデル (G-PRiSM) を考 案し、解析結果をコンピュータ上の当該地域の地図 上に展開するためのアプリケーションソフトを開発 した。このアプリケーションソフトを開発した目的 は、各会場周辺におけるMCI対応力を可視化し、比較 することによって、地域内の脆弱性評価を容易にし、 地域全体の対応計画の策定に役立てることにある。 今年度の研究目的は、G-PRiSMの操作性や視認性なら びに機能拡張性を高めることと、G-PRiSMを搭載した アプリケーションソフトの作成に必要な項目を明示 し全国地域での活用を見据えた汎用性の向上を図る ことである。

### B. 研究方法

従来の指定エリア内医療機関の受入状況の可 視化に基づき、よりシミュレーション結果を判 読しやすくするための画面のレイアウトの修正、 画面切り替えの簡略化、傷病者数設定条件の追 加を行った。これら基に本アプリケーションソ フトの操作マニュアルを作成した。

### C. 研究結果

アプリケーションソフトはウェブへのアクセスを要さないスタンドアローンの形式をとったうえで、G-PRiSMの操作マニュアルを作成した(資料1)。マニュアルには、アプリケーション作成に必要な項目を明記した。

## D. 考察

本研究において作成したアプリケーションを

用いることにより、各会場周辺の医療機関へ搬 送される傷病者の緊急度とその数の予測ができ、 より具体性を持った準備を可能にすると思われ る。併せて周辺の他の医療機関の繁忙度を知る ことになり、地域全体での事前計画の策定に役 立つと考えられる。また、300人の仮想MCI発生 時の対応力の会場間の差異は、平時の救急医療 の対応力の差異を示している可能性がある。今 回の研究の限界は、搬送対象の緊急と準緊急を 合わせた60人全員が現場に集合し、そこに救急 車が続々と到着し、まずは緊急例の42人を搬送 すると仮定した点にあり、緊急例を搬送する42 台と準緊急の18台のA分は各々の類型のそれら の「中央値」で代用しており、個々の救急車の 値を用いていないことに課題がある。今後さら に現実的な設定に近づけるために、1台ずつのA 分をもとに搬送するモデルで計算し、シミュレ ーションを同じ想定で繰り返し実施し「最適化」 を行う必要がある。加えて、ある救急車が現場 に着いた時に「緊急または準緊急」のいずれか の症例をランダムに運ぶというモデルの試作も 必要である。

### E. 結論

本シミュレーションモデルを用いた仮想MCI発生時の各会場における周辺医療機関の搬送傷病者数と緊急度内訳の予測は、各医療機関における計画策定と各地域の脆弱度に係る課題抽出に有用である。今回のアプリケーションソフトの改訂によって、その操作性や視認性ならびに機能拡張性を高めることができ、今後の全国地域での活用を見据えた汎用性の向上を図ることができた。

## F. 研究発表

Medicine at mass gatherings: current progress of preparedness of emergency medical services and disaster medical response during 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games from the perspective of the Academic Consortium (AC2020). Acute Med Surg. 2021 Feb 2;8(1):e626.

- 2. 東京オリンピック・パラリンピック開催に係る 救急・災害時医療体制の課題と対策. 麻酔 69巻. p S90-S97.2020年11月.
- 3. オリンピックコンソーシアムから集中治療医に 期待すること. 日本集中治療医学会雑誌 27巻. p230. 2020年9月.
- G. 知的財産の出願・登録状況

特になし

# G-PRISM「多数傷病者発生事故搬送シミュレーションモデル」 Geographical Prediction and Risk assessment model for Mass casualty incident

ver1.

2021年3月19日 東京大学大学院医学系研究科 救急科学教室 分担研究者 森村尚登

# 目次

はじめに	6
1.G-PRiSM の実行	
<b>Step1</b> : シミュレーションの実行	7
Step2:災害発生場所の選択	8
Step3:搬送先医療機関と発災場所から病着までに要する搬送条件と時間を設定	8
Step4:現場滞在時間の設定	10
Step5:救急車の速度を設定	10
Step6:移動時間の測定	10
Step7:搬送開始	11
Step8:シミュレーション完了	11
2.シミュレーション完了画面表示項目説明	12
3 . 結果表示	16
結果 1 画面	16
結果 2 画面	
4.G-PRiSM インストール手順	
1)システム要件	18
2) JAVA SE 11 のインストール	18
3)G-PRiSM 本体のインストール	19
4 )インターネット接続	20
5) シミュレーション必要データ一覧 vlem(マクロ)を使用したデータ修正 お上び出力	20

#### はじめに

G-PRiSMとは、Geographical Prediction Risk assessment model for Mass casualty incidentの略です。オリンピック開催などで想定される、多数傷病者事故(mass casualty incident: MCI)発生時の、傷病者の医療機関への搬送状況、地図上でシミュレーションするツールです。MCIが発生した場所の周辺医療機関に、何名の傷病者が搬送される可能性があるかを、傷病者の緊急度別に算出し結果を表示します。

シミュレーションには、以下のいくつかの前提条件があります。

- 1回のMCIで発生する患者数は300名に設定してあります。患者数の変更は、本ツール上では実施できません。
- MCI発生後のトリアージ別患者割合は、文献1に従い、赤14%、黄6%、緑65%、黒15%で計算されます。このうち、赤と黄を搬送対象としています。患者割合の変更は、本ツール上では実施できません。
- 「災害発生場所」には、現時点では、オリンピックが開催される会場と、主要な駅が登録されています。確認したい場所を選択することが可能です。
- 「搬送範囲」では、患者の発生から病院到着までの時間を設定します。患者は、その時間内に搬送できる医療機関に搬送されます。搬送範囲の詳細は、本文末尾のPDFから確認できます。
- 「現場滞在時間」は、救急隊の現場到着から出発までの時間です。自由に変更が可能です。
- 搬送先医療機関は、医療機関の機能に応じて、救命救急センターと指定二次救急病院の中から複数 選択可能です。

本ツールは、以下の3者が合同で開発しました。

- 1. 東京都・神奈川県内の都心南部直下地震を想定した災害医療リスクリソースに係わる学術的検討 (RRR研究会)
- 2. 厚生労働省科学研究事業「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての救急・災害医療体制構築に関する研究:開催地域の救急医療体制の構築とリスク評価に係る研究(森村班)」
- 3. 厚生労働行政推進調査事業「国土強靭化計画を踏まえ、地域の実情に応じた災害医療提供体制に関する研究(分担研究:森村班) |

# 1. G-PRiSM の実行

NOTE:本項では、事前にG-PRiSMをインストールしていることを前提に、操作方法をご案内します。G-PRiSMの インスト―ルが完了していない場合は、こちらをご参考の上、G-PRiSMをインストールしてください。

# Step1:シミュレーションの実行

G-PRiSMがインストールされたフォルダー内にある、「G-PRiSM\_Windows\_bat」クリックすると、一瞬、下記 バッチファイル実行画面が表示された後、図2のシミュレーション画面が表示され、シミュレーションの実 行前に、G-PRiSMの各種条件設定(災害場所、患者の搬送先、現場での滞在時間及び救急車のスピード等)が 可能となります。

	更新日時	種類	サイズ
■ 3d	2020/03/17 11:32	ファイル フォルダー	
cache	2020/03/17 11:33	ファイル フォルダー	
chromium	2020/03/17 11:34	ファイル フォルダー	
📜 database	2020/03/17 11:47	ファイル フォルダー	
📜 lib	2020/03/17 11:33	ファイル フォルダー	
AnyLogic Model End User Agreement.pdf	2020/01/25 0:24	Adobe Acrobat Docu	168 KB
database_readme.txt	2020/03/16 17:40	テキスト ドキュメント	1 KB
G-PRiSM_linux.sh	2020/03/16 17:40	SH ファイル	5 KB
G-PRiSM_mac	2020/03/16 17:40	ファイル	5 KB
G-PRiSM_windows.bat	2020/03/16 17:43	Windows バッチ ファイル	5 KB
型 G-PRiSM操作手順_210319.docx	2021/03/19 11:33	Microsoft Word 文書	16,467 KB
▶ G-PRiSM操作手順_210319.pdf	2021/03/19 11:15	Adobe Acrobat Docu	3,447 KB
license.txt	2020/01/25 0:24	テキスト ドキュメント	13 KB
<b>≜</b> model.jar	2020/03/16 17:40	Executable Jar File	295 KB
readme.txt	2020/03/16 17:40	テキスト ドキュメント	1 KB
Result.xlsx	2020/03/17 11:47	Microsoft Excel ワーク	21 KB
🗷 シミュレーション必要データ一覧.xlsx	2019/04/17 11:52	Microsoft Excel ワーク	148 KB

NOTE:パソコンのデスクトップに、「G-PRiSM\_Windows\_bat」 のショートカットを作成すると便 利です。



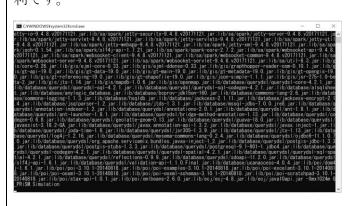


図1 バッチファイル実行画面

NOTE:上記画面が表示された際、エラー等が表示され、図2に示すシミュレーション開始画面が表示されない場合は、G-PRiSMを実行するのに必要な、Java SE 11以降がインストールされていない可能性があります。詳しくは、G-PRiSMインストール手順をご参照ください。



図2 G-PRiSMシミュレーション画面

#### Step2:災害発生場所の選択

災害場所選手村

「災害場所ドロップ ダウンリスト」から 災害発生場所を選択 します。ここでは、 例として、選手村が 選択されています。

#### Step3:搬送先医療機関と発災場所から病着までに要する搬送条件と時間を設定

搬送条件には、搬送先条件「①高緊急を近い範囲に、中緊急をその遠方に運ぶ」と搬送先条件「②高緊急と中緊急患者を同じ範囲に運ぶ」があり、それぞれ動作が異なります。シミュレーションの実行前に、希望の条件を①か②を選択します。

# 仮想搬送条件を設定する

- ①高緊急を近い範囲に、中緊急をその遠方に運ぶ
- ○②高緊急と中緊急患者を同じ範囲に運ぶ



トリアージレベル

高緊急例(赤)、中緊急例(黄)

# ①を選択した場合

- 搬送先医療機関 カテゴリーを設 定。(複数選択可 能)
- □救命救急センター
  □救急告示病院
  □二次救急病院
  高緊急例(赤)と中
  緊急例(黄色)の患
  者を搬送させる医療
  機関の選択。
- 搬送時間設定 消防署から病院到着 までの最大時間を設 定します。高緊急 (赤)は、0~120分、 中緊急(黄)は、奇 緊急(赤)~180分で、 それぞれ別々の時間 を設定では、ともに60分 が設定されていま す。

# 仮想搬送条件を設定する

- ○①高緊急を近い範囲に、中緊急をその遠方に運ぶ
- ②高緊急と中緊急患者を同じ範囲に運ぶ

# ②を選択した場合

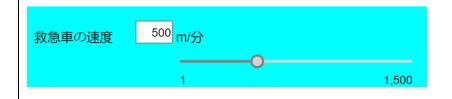
高緊急(赤)と中緊急(黄)の患者の搬送先は、それぞれ別々に選択できます。ただし、搬送時間設定は、高緊急(赤)と中緊急(黄)は、共通の設定となります。

# Step4:現場滞在時間の設定



トリアージレベルご との現場滞在時間を 設定します。設定で きる範囲は、 $0^3$ 0 分の間です。

## Step5:救急車の速度を設定



救急車の速度を設定 します。設定できる 範囲は、 $1^{-1}$ ,500m/分 です。

#### Step6:移動時間の測定





シミュレーション開 始画面の左下に、モ デルを実行等が可能 なボタンがありま す。それぞれのボタ ンの動作概要は、左 記(青枠)に示しま す。モデルを実行す るには、ウィンドウ 左下にある「開始ボ タン (▶) 」をクリッ クします。シミュレ ーションを実行する と、前項で設定され た内容で、地図画面 が表示され、救急車 が移動し、移動時間 (発災場所から各消 防署・各病院までの 移動時間)を計測し ます。

# Step7:搬送開始



移動時間の計測が完 了し、シミュレーションの開始を待機している状態です。 面左上の「搬送開始」ボタンをクリックすることで、救急車が移動し、 患者を乗せた後、 院に搬送します。

### Step8:シミュレーション完了



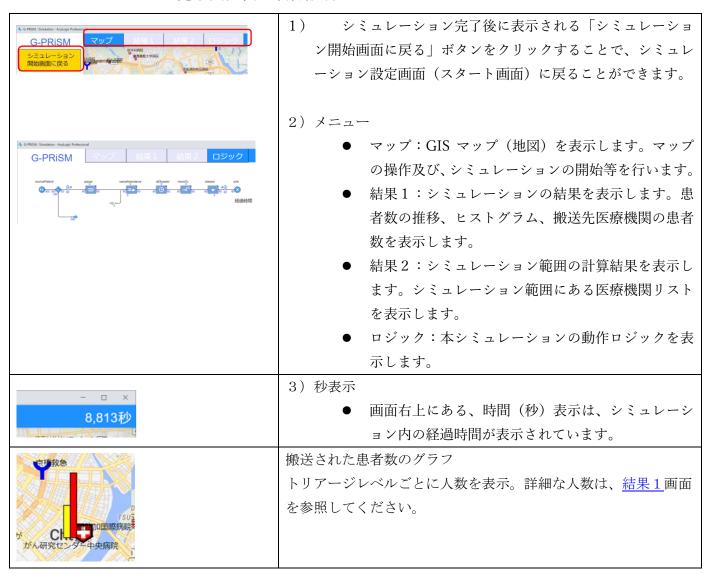
シミュレーションが 完了すると、画面下 に、「シミュレーション完了」が表示さ れます。

#### NOTE:

地図画面左下に、 が表示される場合があります。これは、インターネット経由で地図情報をダウンロード 中の表示となります。ダウンロードが完了するまで、お待ちください。なお、条件によってはダウンロード 時間が長くなることがあります。一度ダウンロードした地図情報は、同じ条件(災害場所・消防署・病院が 同じ場合)で、再度実行する場合は、地図情報がキャッシュされているため、計測が短時間で完了します。

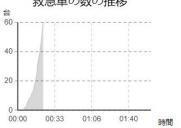


### 2. シミュレーション完了画面表示項目説明



# 【搬送範囲算出結果】

aを算出するために使う 救急車の数の推移



消防署から現場に到着した救急車の推移

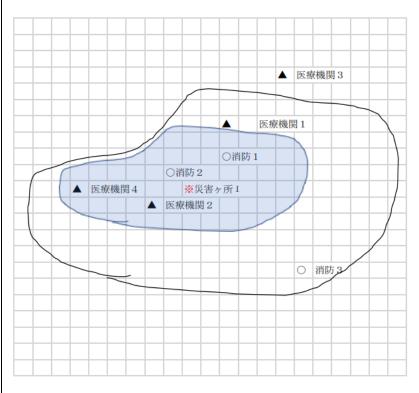
縦軸:台数 横軸:時間

シミュレーション範囲 直近救急車の 覚知~現着時間の中央値 a1 16.5分 a2 21.8分 現発~病着 120分の場合(b1)73.5分 120分の場合

b2 68.2分 搬送完了時間 108.5分

# シミュレーション範囲の定義

シミュレーション範囲とは、災害発生地点から搬送先医療機関までの範囲の設定条件を言います。 搬送範囲の設定は、災害発生地点からの直線距離ではなく、道路上の時間距離で設定されます。



#### 図3【シミュレーション範囲のイメージ】

救急車の推定走行時間を割り出して、その中に含まれる医療機関を搬送先候補とします。 直線距離とは違い、発生地点近隣の医療機関の有無 等により、設定範囲は狭くなったり広くなったりします。 範囲の設定方法は、下図の通りです。

#### 300人を60台で搬送→現場~根本治療開始<60分とするためには

- 現場=(a+15+b)分
  - 300人(変数)
  - ・赤+黄の比率=20%(14%+6%)→服部研究
  - ・60人に60台
  - 直近救急車60台の覚知~現着の平均時間=a分 • Aは消防到達度データによりメッシュごとに異なる変数
  - ・現場滞在時間=東京消防平均データ14分=15分 ・ 病院選定に係る時間(7分)は加えない
  - 現発~病着=b分
- 病着~根本治療開始=15分
  - 横浜重症外傷センタープロトコル



発災場所によってaが規定されるため、例えばa=10分ならば、Totalを60分以内にするためにはb=20分となり、搬送 先候補の医療機関は発災場所から20分圏内(500m/分の 救急車平均速度だと10km圏内) その際、赤を60分以内、黄を120分以内とする。







#### 図【シミュレーション範囲の設定方法】

シミュレーション範囲は、図に記載された、災害地点から「b」の 時間内に到達できる 範囲にある医療機関とします。「b」は、総 搬送時間によって規定されます。 例として、総搬送時間は、全て の患者を 60 分以内範囲に搬送するモデルと、赤を 60 分以内、 黄 を 120 分以内に搬送するモデルの 2 種類があります。

・60分圏内に全て搬送するパターン

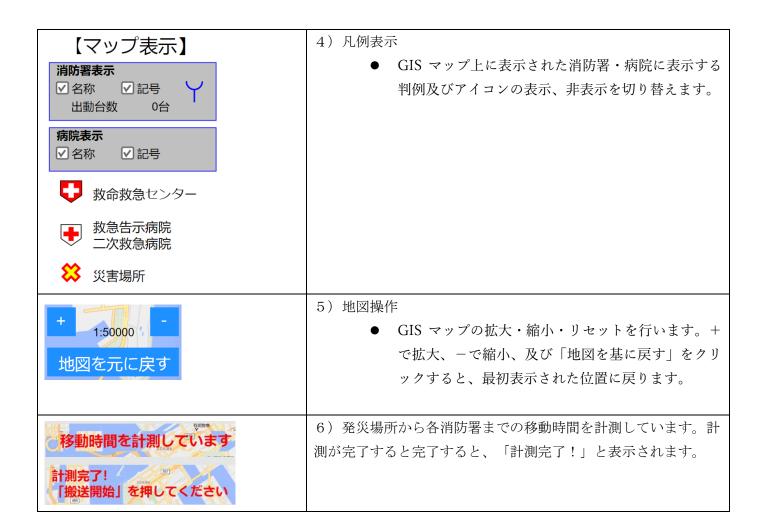
「赤対応の42台」の現場までの到着時間の「中央値」をa1とし、 赤対応の60分圏b1を算出する。

災害地に集合する救急車は60台分とし、b1範囲に黄色も搬送しま す。遠方の救急車は使われないで終了することを許可します。

・赤を60分圏内に、黄色を60~120分圏内に搬送するパターン(ラ ンダム発生はなく、赤から黄の順番に搬送する。)

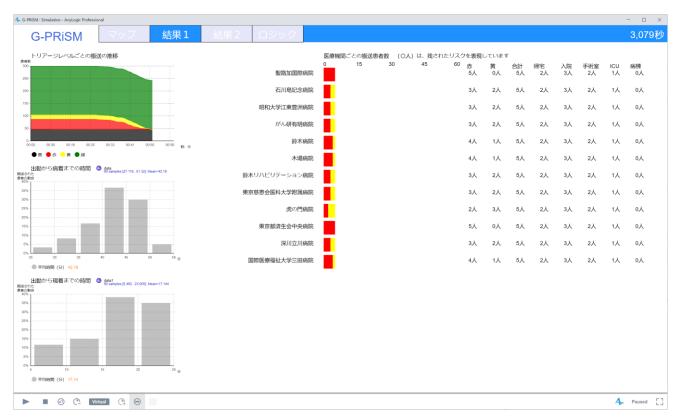
「赤対応の42台」の現場までの到着時間の「中央値」をa1とし、 赤対応の60分圏b1を算出します。

「黄対応の18台」(60台の遠い方から18台分)の現場までの到着 時間の「中央値」をa2とし、120範囲をb2とし、搬送先はb1-b2の 範囲の医療機関としています。



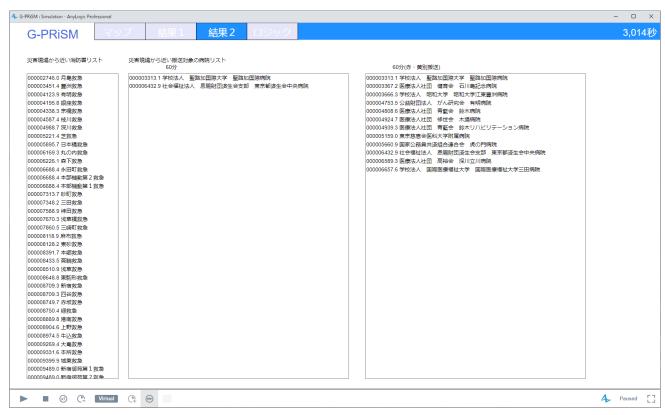
# 3. 結果表示

#### 結果1画面



- トリアージレベルごとの搬送の推移 シミュレーション経過とともに搬送されていない患者の数を表示します。
- 出動から病着までの時間 救急車の出動から搬送先病院到着までの時間をヒストグラムに表示します。
- 出動から原着までの時間 出動から発災現場到着までの時間をヒストグラムに表示します。
- 医療機関ごとの搬送患者数 医療機関に搬送されたトリアージレベルごとの患者の数を表示します。 帰宅・入院・手術室・ICU・病棟は患者数に特定の割合を乗じて算出します。

#### 結果2画面



- 災害現場から近い消防署リスト シミュレーション実行前の計測をもとに発災場所から近い消防署のリストを作成します。「 距離と名称を表示します。
- 災害現場から近い搬送対象の病院リスト シミュレーション実行前の計測をもとに発災場所から近い病院のリストを作成します。 仮想搬送条件に従って距離と名称を表示します。

### 4. G-PRiSMインストール手順

#### 1)システム要件

G-PRiSMを動作させるには、下記のソフトが必要です。

OS: Windows 10

JAVA SE 11以降

G-PRiSMアプリ

シミュレーション必要データ一覧.xlsx

インターネット接続

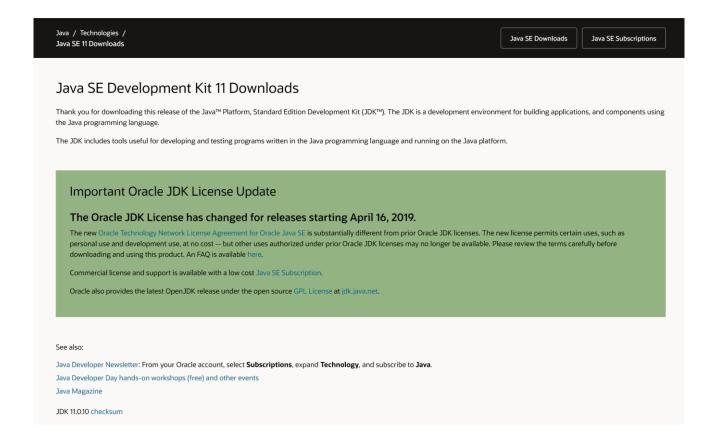
#### G.1. 2) JAVA SE 11 のインストール

G-PRiSM アプリを使用するには、JAVA SE 11をご利用中のPCにインストールする必要があります。JAVA SE 11は、これまで無償で供給されてきましたが、エンドユーザー様が業務用に使用する場合は、有償版の購入が必要となりました。お客様が、一般の会社、国立の研究所及び行政機関等の場合は、有償版のインストールが必要です。個人での利用やアカデミアでの利用は、無償の利用が可能です。

Java SE ダウンロード (oracle.com)

javase-dev-license | Oracle 日本





#### 3) G-PRiSM本体のインストール

G-PRiSM CD内にあるファイル全てを、PCのご希望のフォルダー内に、貼り付けます。ファイル構成は、下記のようになります。G-PRiSM実行するには、この中の「G-PRiSM\_windows.bat」クリックします。



#### 4) インターネット接続

G-PRiSMでは、インターネットに接続して、地図情報をダウンロードする必要があります。したがいまして、インターネットの接続が必須となります。一度ダウンロードした地図情報は、同じ条件(災害場所や地域等の設定が同じ場合)で、再度実行する場合は、地図情報がキャッシュされているため、計測が短時間で完了します。

#### 5) シミュレーション必要データー覧.xlsm(マクロ)を使用したデータ修正、および出力

シミュレーション必要データ一覧. xlsm(マクロ)は、シミュレーションに必要な、病院、消防署等の位置情報等を編集するマクロファイルです。G-PRiSM実行前に、本エクセルファイルを必要に応じて編集し、出力ボタンを押して、シミュレーション必要データ一覧. xlsxとして保存しておく必要があります。G-PRiSMは、このデータを基に、シミュレーションを実行します。

#### (1)編集手順

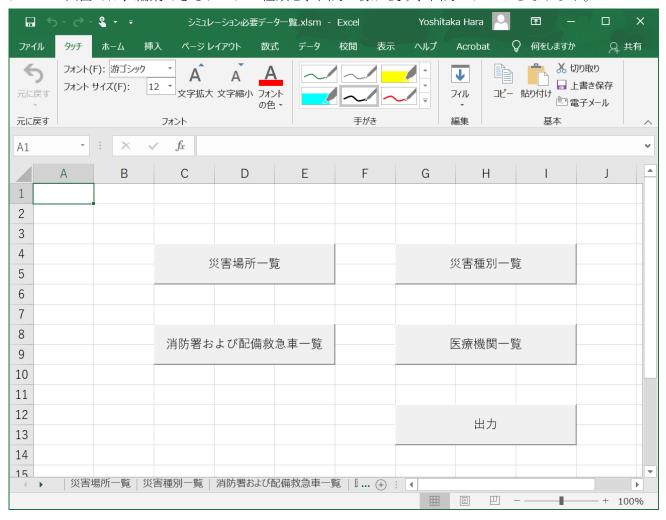
G-PRiSMがインストールされたフォルダー内にある、シミュレーション必要データ一覧. xlsm (マクロファイル) をクリックすると、下記画面が表示されますますので、必要に応じて編集します。

#### NOTE:

既に、必要なデータ(シミュレーション必要データ一覧.xlsxファイル)が準備できている場合は、この操作は不要です。

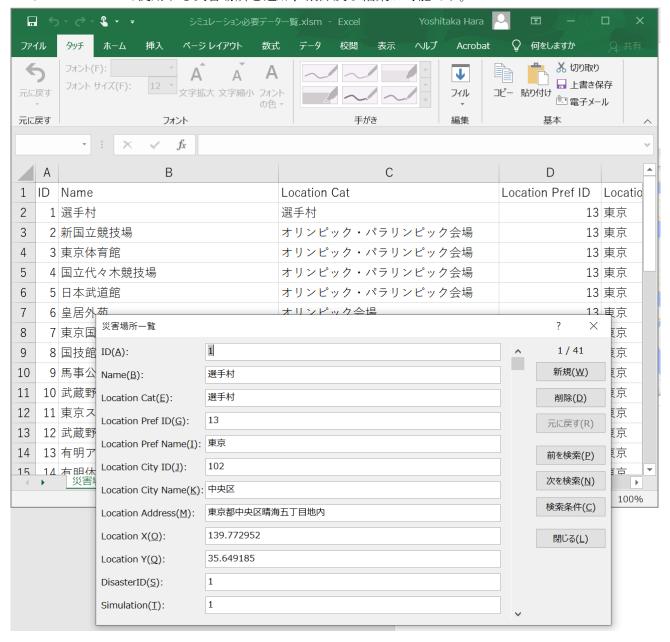
#### ①メニュー画面

メニュー画面では、編集できるデータの種類と、出力の際に使う、出力ボタンからなります。

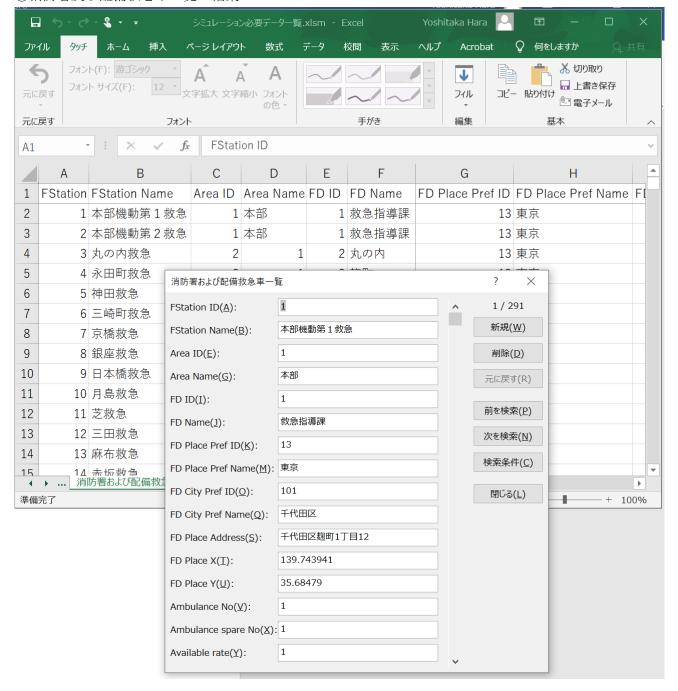


#### ②災害場所一覧の編集

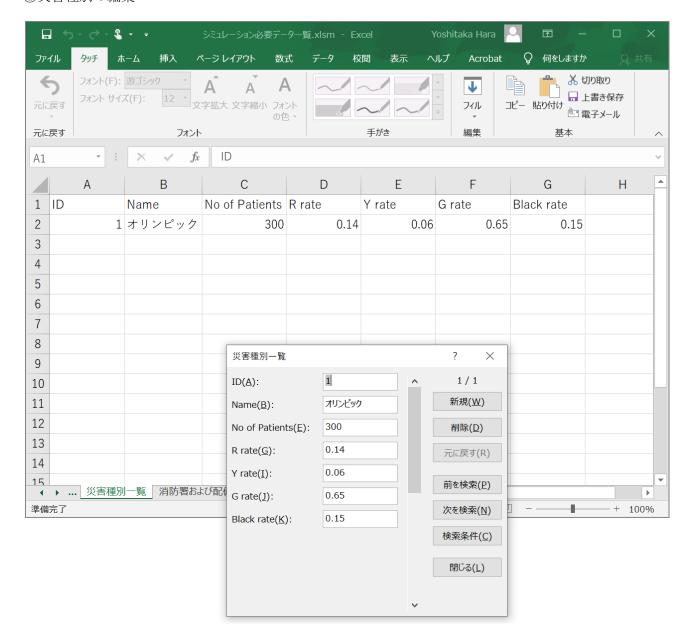
シミュレーションで使用する災害場所を追加、削除及び編集が可能です。



#### ③消防署及び配備救急車一覧の編集



#### ④災害種別の編集



# ⑤医療機関一覧の編集

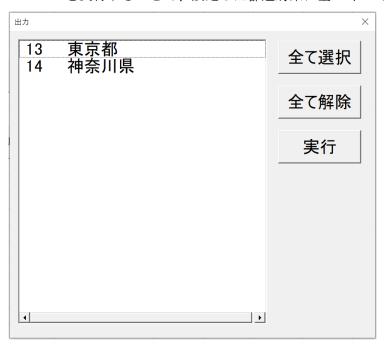
医療機関の情報を追加、削除及び編集が可能です。

医療機関一覧			?	×
Hosp ID( <u>A</u> ):		^	1 / 689	)
Hosp ID common(B):	1310870857		新規( <u>W</u>	)
HospID MedFunction( <u>E</u> ):	1313070037		削除( <u>D</u> )	)
Hosp Name( <u>G</u> ):	医療法人社団 藤崎病院		元に戻す(	R)
Hosp Name Short( <u>I</u> ):	藤崎病院		前4.1分声/	'D)
Hosp Place Pref ID( <u>J</u> ):	13		前を検索(	
Hosp Place Pref Name(K):	東京都		次を検索(	<u>N</u> )
Hosp City ID(M):	108		検索条件(	( <u>C</u> )
Hosp City Name( <u>O</u> ):	江東区		閉じる( <u>L</u>	.)
Hosp SMCA ID(Q):	1307			
Hosp SMCA Name(S):	区東部			
Hosp Place Address( $\underline{T}$ ):	東京都江東区南砂1-25-11			
Hosp Place Y( <u>U</u> ):	35.67657335			
Hosp Place X( <u>V</u> ):	139.82690104			
Advanced EM Center( $\underline{X}$ ):	0			
Certified EMC Hosp( $\underline{Y}$ ):	1			
Secondary EMC Hosp( <u>Z</u> ):	1			
Total Bed No( $\underline{Z}$ ):	119			
ICU bed( $\underline{Z}$ ):	0			
Operation room(Z):				
HCU bed( <u>Z</u> ):	4			
NICU bed( $\underline{Z}$ ):	0			
GCU bed( <u>Z</u> ):	0			
PICU bed( $\underline{Z}$ ):	0			
MFICU bed(Z):	0			
SCU bed(Z):	0			
CCU bed( <u>Z</u> ):				
Simulation( <u>Z</u> ):	1	~		

⑥出力ボタン(シミュレーションを実行する地域(都道府県)を選択します。)



出力ボタンを押すと、下記画面が表示されます。この画面では、シミュレーションを実行する地域(都道府県)を選択します。一つの都道府県、あるいは複数を選択し、実行をクリックすることで、G-PRiSMシミュレーションに必要な「シミュレーション必要データ一覧.xlsx」を保存することができます。その後、シミュレーションを実行することで、設定した都道府県に基づくシミュレーション結果を得ることが可能です。



(注)上記に表示される都道府県名は、元になるデータにより異なります。